

The 6th BIJ FAMILY CONCERT

第6回BIJファミリーコンサート

「東日本大震災で被災した子供たちを支援するコンサート」

出演 指揮:井上喜惟/ジャパン・シンフォニア/ソプラノ:三谷結子/司会:永井美奈子

プロフィール



ジャパン・シンフォニア

創設以来、年々進化を続けるジャパン・シンフォニア。主軸の多くが独逸で学んだメンバーで構成される、日本では極めて稀なオーケストラである。「ジャパン・シンフォニア」は音楽監督、井上喜惟の「国内のみならず、日本から海外に向け本格的な音楽を発信するオーケストラ

を作ろう。」という提唱のもと、2003年秋に発足した。その主軸メンバーには、音楽監督、井上喜惟同様に長い年月欧州での研鑽、演奏活動を持ち、現在も国内外で活躍する日本のトップ・プレーヤーたちが集結した。メンバーの多くは、海外から帰国した、欧州での留学・演奏経験者である。充分な準備による音楽的な方向性の相互理解を通し、「オーケストラは巨大な室内楽」であるという、本来の原点に立ち返ることをポリシーとして掲げている。その意味でも非常に稀有な存在として、多くの音楽関係者から絶賛されている。年2回の定期演奏会の他、毎夏に行うBIJファミリーコンサート、またテレビでもBSフジのモーツァルト生誕250周年記念コンサートに出演する他、「交渉人真下正義」や「Flowers」など映画制作にも協力するなど幅広い活動を行っている。定期公演ではモーツァルトからヴェーベルンまで幅広い作品を取り上げているがCDとして発売されたベートーヴェン交響曲第3番「英雄」、ブラームス交響曲第1番、マーラー交響曲第4番は産経新聞、レコード芸術、音楽現代各誌で推薦盤として注目された。



井上喜惟(ジャパン・シンフォニア音楽監督)

中学卒業後渡欧。ヴェス、チェリビダツケ、ベルティーニ、シュタイン、パースタインに師事。カラチエフスキー、小澤征爾のアシスタントも務めた。1992年、チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会で正式デビュー。以後、チェコ、ポーランド、旧ソ連等を中心に活躍、チェコ・ナショナル交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団、他を指揮、多数のCDをレコーディング。ウィーンで指揮者のロリス・チェクナボリアンと知り合いになったことがきっかけとなり、1993年、アルメニア・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、朝日、日経新聞紙上で大きな話題となった。以来2000年まで客演指揮者を務めることとなった。2000年4月、井上の尽力により同オーケストラは日本政府の無償資金協力を得て楽器等を一新、同年9月にはそれらの楽器の披露も兼ねて、井上自身のプロデュース、国際交流基金の助成によりアルメニアの首都、エレヴァンで「日本音楽週間」が実現した。この模様は朝日新聞紙上で大きく取り上げられた。2001年から2003年までアルメニア国立放送交響楽団音楽監督・首席指揮者。現在、ジャパン・シンフォニア音楽監督およびウィーン国際マーラー協会からの承認を得て活動中のアマチュア・オーケストラ、ジャパン・グスタフ・マーラー・オーケストラでも設立段階から音楽監督を務めている。2011年秋からモンゴル国立音楽舞踏大学客員教授に就任予定。



三谷 結子(ソプラノ)

三重県出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業。読売新人演奏会をはじめ各種新人演奏会出演後ウィーンに留学。ブライナー・コンセルトバール声楽科を最優秀の成績で卒業。碓井士郎、及川愷、宮廷歌手ソーナ・ガザリアン、宮廷歌手レナーテ・ホルム、諸氏に師事。オーストリア・バーデン市立劇場のオーディション合格。レハール作曲「微笑みの国」の「ミー」役にデビュー。各方面より大好評を得、同劇場で、レハール作曲「ロシアン皇太子」の主役「ソニア」に抜擢され好演、絶賛を浴びる。その後ヨーロッパ各地の劇場及びフェスティバルに多数客演。2001年にはヨーロッパ最大の湖上フェスティバル・メルビッシュ湖上音楽祭で「微笑みの国」の「ミー」役に抜擢されヨーロッパ及び日本でその模様はテレビ放映され好評を得た。日本では2002年5月新国立劇場にツェラー作曲「小鳥売りのヒロイン」クリスタル役でデビュー。テレビ・新聞などに大きく取りあげられ、大成功を果たした。又コンサート歌手としても活躍しリナーアーベントやウィーンの各種イベントに多数出演。得意のドイツ語及びオーストリア各地の方言などで多くのウィーン歌曲を歌いこなすオーストリア人の観客から厚い支持を受けている。チャリティー活動にも大変意欲的で子供のためのチャリティー及び東日本大震災のためのチャリティー活動などに貢献している。現在ヨーロッパ各地及び日本で、オペラ・オペレッタ・ガラコンサート、オラトリオのソロ、リサイタル、各種記念式典そしてテレビ・ラジオ出演と幅広く活躍している。JILA音楽コンクール声楽部門優勝。ニコ・ドスタル・コンクール受賞。ヨハン・シュトラウスコンクール入賞。ローベルト・シュトルツ協会より感謝状受与。現在舞台活動の傍らウィーン音楽大学の声楽科の講師としても活躍している。



永井美奈子(司会)

オフィシャルホームページ
<http://www.nagaiminako.com>

日本テレビアナウンサーを経てフリーに。「マジカル頭脳パワー」『24時間テレビ』『ザ・サンデー』他、多数の番組を担当。退社後は、政界、財界、スポーツ選手、芸能人100人に取材をするなど、インタビュアーとしても活躍。現在、妻、二児の母(9歳、4歳)、フリーアナウンサー、研究者、と四足の草鞋を履きこなすべく奮闘中。慶応義塾大学研究員。成城大学非常勤講師。主な活動として、クラシックコンサートやイベントの司会、ラジオ、講演会、エッセイの執筆のほか、小学校においての「朗読」講師のボランティアや、子を持つ親の立場でのプロデュースなど、活躍の場を広げている。ファミリーコンサートの司会は、今年で4回目を迎え、台本作成や企画・演出にも積極的に関わっている。また、このたびの東日本大震災に際し、被災した方達に本を贈る活動「心のとしょかんプロジェクト」に参加。寄贈された「心がほっとするような、元気になるような」本を、廃棄可能なダンボールの本棚に入れ、避難所や被災地に設置している。<http://www.facebook.com/kokoronotoshokan> 今後は、被災地を訪れての朗読会なども予定しており、被災地そして子どもたちを支援していくことを長期的なライフワークとして考えている。

第6回BIJファミリーコンサートによせて(ジャパン・シンフォニア音楽監督:井上喜惟)

東日本大震災で亡くなられた多くの人々に深く哀悼を捧げるとともに被災し、また原発により避難を余儀なくされた方々にお見舞いを申し上げます。被災された方々の中には、多くの子供たちが含まれます。復興にはまだ多くの時間がかかることでしょう。しかし、未来を背負っていく子どもたちを守っていかねばなりません。被災した子供たちが少しでも早く、心穏やかな生活に戻れるように祈っています。このコンサートを通して子供たちの未来を考え、また会場の皆さんと音楽を通して心を共有したいと思います。被災地の子供たちの一助になるように、多くの皆さんのご協力を切にお願いいたします。

メッセージ(主催者:ベーリンガーインゲルハイムジャパン株式会社)

3月の東日本大震災により被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。今年で6回目を迎えますBIJ FAMILY CONCERTは、大震災で被災されたお子様を支援するためのコンサートといたしました。ベーリンガーインゲルハイムは、病気の研究や革新的な医薬品、治療法の開発を通じて人々に奉仕することを使命としています。また100年以上にわたって「思いやり」の企業文化を醸成し、「人々のより良い健康のために」をモットーに、企業の社会的責任や献身的に社会へ関与する風土を目指しています。このコンサートを通じ子供たちの笑顔や心の健康に貢献できれば幸いです。本日はお子様方と一緒に音楽をお楽しみください。